

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠
改訂日: 2021 年 1 月 6 日

発行日: 2021 年 1 月 6 日

バージョン: 1.0

セクション 1: 化学物質等および会社情報

製品特定名

製品形態 混合物
製品名 MED-6640 Part A
別名 シリコーン分散液

該当純物質または混合物の関連特定用途および使用禁止用途

物質／混合物の用途 業務用のみ。

安全データシートの作成者に関する詳細

会社名

NuSil Technology LLC
1050 Cindy Lane
Carpinteria, California 93013
USA
(805) 684-8780
ehs@nusil.com
www.nusil.com

緊急時の連絡先電話番号

緊急連絡先電話番号 800-424-9300 CHEMTREC (米国内)、+1 703-527-3887 CHEMTREC (国際および海上)
+(81)-345209637

セクション 2: 危険有害性情報

物質または混合物の分類

GHS-JP 分類

物理的危険性 引火性液体、区分 3
健康に対する危険有害性 急性毒性(皮膚)、区分 4
急性毒性(吸入:蒸気)、区分 4
皮膚腐食性／刺激性、区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性、区分 2
特定標的臓器毒性(単回暴露)、区分 1
特定標的臓器毒性 - 単回暴露、区分 3、昏睡
特定標的臓器毒性(反復暴露)区分 1
環境有害性 水生環境急性有害性 - 区分 2
水生環境有害性 - 慢性有害性 - 区分 2

ラベル要素

有害性に関する絵表示(GHS-JP)



注意喚起語(GHS-JP)
危険有害性情報(GHS-JP)

危険
引火性液体および蒸気(H226)。
皮膚への接触または吸引した場合は有害(H312+H332)。
皮膚刺激(H315)。
強い眼刺激(H319)。
眠気またはめまいのおそれ(H336)。

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

注意書き[予防策]

臓器(中枢神経系、腎臓、肝臓、呼吸器系)に障害を引き起こす(H370)。

長期にわたる暴露または反復暴露により臓器(中枢神経系、呼吸器系)に障害を引き起こす(H372)。

長期的影響により水生生物に毒性(H411)。

熱、高温の表面、火花、火気、その他の発火源から遠ざける。禁煙。(P210)。

容器を密閉しておくこと。(P233)。

容器と受器を接地し、結合する。(P240)。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること(P241)。

火花を発生させない工具を使用すること。(P242)。

静電放電防止対策をとる。(P243)。

蒸気、ミスト、スプレーを吸入しないこと(P260)。

取扱い後は手、前腕部、顔をよく洗うこと。(P264)。

本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。(P270)。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)。

環境への放出を避けること。(P273)。

保護手袋、保護衣、眼球保護具を着用すること。(P280)。

皮膚に付着した場合:多量の水で洗うこと。(P302+P352)。

皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて取り去ること。水で皮膚を洗浄すること。(P303+P361+P353)。

吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること(P304+P340)。

眼に入った場合:水で数分間、注意深く洗浄すること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。(P305+P351+P338)。

暴露した場合や暴露が懸念される場合:毒物センターまたは医師に連絡すること。(P308+P311)。

気分が悪い時は、毒物センターまたは医師に連絡すること。(P312)。

特別な処置が必要(この SDS のセクション 4 を参照)(P321)。

皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。(P332+P313)。

眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。(P337+P313)。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)。

火災が発生した場合:適切な消火剤を使用すること(P370+P378)。

漏出物を回収すること。(P391)。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)。

施錠して保管すること。(P405)。

国際/国/都道府県/市町村の規則に従って、内容物/容器を廃棄すること。(P501)。

対応の注意書き

保管の注意書き

廃棄の注意書き

その他の危険有害性

分類に関係しない他の危険有害性

既存の眼疾患、皮膚疾患、または呼吸器系疾患がある場合は、暴露によりこれらの疾患が悪化するおそれがある。

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 3: 組成／成分情報

物質または混合物の識別 名称	濃度	混合物 化学式	公報リストの参照番号		CAS 番号
			CSCCL 番号	ISHL 番号	
キシレン(o-, m-, p-異性体)	70 - 90%	C8H10	(3)-3、(3)-60	4-(1)-39	1330-20-7

セクション 4: 応急措置

応急措置の説明

一般的な応急措置

意識のない場合は、口から何も与えてはならない。気分が悪い場合は、医師の診察を受ける(可能な場合はラベルを提示する)。

吸入した場合の応急措置

症状が発生した場合: 屋外に退避し、暴露の疑いのある区域の換気を行う。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。医師の診断／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合の応急措置

直ちに汚染された衣類を脱ぐこと。汚染された領域を直ちに水で 15 分以上洗い流す。直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。

眼に入った場合の応急措置

直ちに水で 15 分以上洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。

飲み込んだ場合の応急措置

口をすすぐ。無理に吐かせない。医師による診察を受けること。

応急処置をする者の保護と対策

適切な個人用保護具(PPE)を使用する。

急性と遅延型の両方を含む、最も重要な症状と影響

症状／影響

吸入すると有害。皮膚に接触すると有害。強い眼刺激。皮膚刺激。眠気またはめまいのおそれがある。長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。臓器の損傷を引き起こす。

吸入した場合の症状／影響

吸入が、炎症、呼吸困難、意識喪失などの健康への悪影響を引き起こす可能性がある。

皮膚への接触後の症状／影響

赤み、痛み、はれ、かゆみ、炎症、乾燥、皮膚炎。この物質は、皮膚に接触すると有害であり、多大な健康への悪影響または死を引き起こす可能性がある。この物質は皮膚と眼から吸収されるおそれがある。

眼に入った後の症状／影響

接触により、結膜の赤み、膨張を伴う重度の炎症を引き起こすおそれがある。

飲み込んだ場合の症状／影響

飲み込むと有害な影響を及ぼすおそれがある。

慢性症状

長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。

即時の医療措置および特別な治療の対象となる症状

暴露した場合や暴露が懸念される場合には、医師の診断、手当てを受けること。医師の診察が必要な場合、製品の容器やラベルを持参すること。

セクション 5: 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

散水、水の噴霧、二酸化炭素(CO₂)、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤。

不適切な消火剤

強力な放水を使用してはならない。強力な放水を使用すると、燃焼している液体が広範囲に飛散する可能性がある。

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

物質または混合物に由来する特別な危険有害性

火災危険性

引火性の液体および蒸気。蒸気は空気より重く、発火源までかなりの距離を移動し、蒸気源に逆引火するおそれがある。水面に浮いて再点火する可能性がある。

爆発危険性

可燃性または爆発性の蒸気・空気の混合物が発生する恐れがある。

反応性

強酸化剤には、激しく反応する。火災または爆発の危険性が増大する恐れがある。

消火時の注意事項

火災に関する予防措置

化学物質による火災の消火は慎重に行う。

消火時の指示

露出した容器の冷却には散水あるいは水の噴霧を使用する。大火災および大量の場合：退避する。爆発の危険があるので、十分に距離をとった位置から消火を行う。

消火時の防護

呼吸用保護具を含む適切な防護具を装着していない者は、火災発生エリアには立ち入ってはならない。

有害燃焼生成物

炭素酸化物（一酸化炭素、二酸化炭素）。ケイ素酸化物。有機化合物。

その他の情報

消火活動の際の流出物が排水設備や水路に入らないようにすること。

セクション 6: 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具、および緊急措置

一般的な措置

蒸気、ミスト、スプレーを吸引しないこと。眼、皮膚、および衣服に接触しないようにすること。熱、高温の表面、火花、裸火、その他の発火源から遠ざかる。禁煙。静電荷の発生を避けるために特別な注意を払う。発火源を除去する。当該領域の換気を行う。

二次災害の防止策

緊急救援隊以外の人員

防護具

適切な個人用保護具 (PPE) を使用する。

緊急措置

不必要な人員を退避させる。安全な場合は漏出を停止する。

緊急対応にあたる人員

防護具

浄化担当スタッフには適切な防護具を装着させる。

緊急措置

現場に到着したら、まず危険なものがないことを確認し、自分自身と周囲の人々を保護し、周辺を安全を確保し、状況が許し次第、訓練された人の支援を求める。最初に着火源を除去してから、汚染場所の換気を行う。

環境に関する注意事項

下水および公共用水への流入を防止する。環境への放出を避けること。漏出物を回収すること。

封じ込めおよび浄化の方法・機材

封じ込め

漏出した物質を防壁または吸収材で封じ込め、移動および下水や水路への流入を防止する。即時的な事前対策として、全方向の漏出あるいはリークエリアを隔離する。当該領域の換気を行う。

浄化方法

漏出した物質を迅速に除去し、回収した物質は安全に廃棄する。不活性物質を用いて漏出した物質の吸収や封じ込めを行う。可燃性の物質（おがくずまたはセルロース系の物質）で吸収してはならない。漏出した物質を廃棄に適した容器に移す。火花を発生させない工具を使用すること。漏出の発生後に、監督官庁に通報する。

他のセクションの参照事項

セクション 8「暴露防止および保護措置」およびセクション 13「廃棄上の注意」を参照のこと。

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 7: 取扱いおよび保管上の注意

安全な取扱いに関する注意事項

加工時の追加的有害危険性

空の容器は、可燃性の残留蒸気が内部に残っている恐れがあるので、取扱いは慎重にする。

安全な取扱いに関する注意事項

眼、皮膚、および衣服に接触しないようにすること。蒸気、ミスト、スプレーを吸引しないこと。屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。火花を発生させない工具を使用すること。空の容器は、まだ危険を引き起こす可能性があるため、慎重に取扱うこと。飲食や喫煙の前、および作業場を離れる際には、手やその他の露出した部位を刺激性の少ない石鹼と水で洗浄する。

衛生対策

労働安全衛生手順に従って取り扱うこと。

安全な保管の条件(混触危険性を含む)

技術的対策

適用される規則を遵守する。静電放電防止対策をとる。容器と受器を接地し、結合する。防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

保管条件

乾燥した涼しい場所に保管すること。直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質を避けて保管する。安全な場所に施錠して保管する。換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。耐火性の場所に保管する。

混触危険物質

強酸、強塩基、強力な酸化剤。

特定の最終用途

業務用のみ。

セクション 8: 暴露防止および保護措置

管理基準

キシレン(o-, m-, p-異性体)(1330-20-7)		
日本	日本の行政基準	50 ppm
日本	暴露限界(JSOH)	50 ppm (217 mg/m ³)
USA ACGIH	ACGIH TWA(ppm)	100 ppm
USA ACGIH	ACGIH STEL(ppm)	150 ppm
USA ACGIH	ACGIH 化学物質カテゴリ	ヒト発がん性物質としては分類不能

生物学的限界

キシレン(o-, m-, p-異性体)(1330-20-7)		
日本	推奨暴露制限値 - 生物学的モニタリング	800 mg/l 媒体:尿 時間:週の終わりの勤務シフト終了時 パラメータ:合計(o-, m-, p-)メチル馬尿酸
ACGIH	生物学的暴露指数(BEI)	1.5 g/g クレアチニンパラメータ:メチル馬尿酸 - 媒体:尿 - 採取時期:交代勤務の終業時

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

暴露防止

適切な工学的管理

暴露の危険性のある区域のすぐ近くに、緊急用の洗眼器および安全シャワーを設置しなければならない。十分な換気が行われるようにすること（特に狭いエリアにおいて）。国／地方公共団体の規則を確実に遵守する。可燃性のガスまたは蒸気が放出される恐れがある場合には、ガス検出器を使用する。静電気の発生を防止するため、適切な手順で接地を行う。防爆型の機器を使用すること。有害ガスが放出される恐れがある場合には、ガス検出器を使用する。

個人用保護具

手袋。保護衣。防護ゴーグル。換気が不十分な場合：呼吸用保護具を着用。



保護衣の素材

耐化学物質性の素材および繊維。耐火／防炎／難燃性の衣服を着用すること。

手の保護

保護手袋を着用すること。

眼および顔面の保護

化学薬品対応の安全ゴーグル。

皮膚および身体の保護

適切な保護衣を着用する。

呼吸器系の保護

暴露限界値を超えるか、かゆみなどが感じられる場合は、認証済み呼吸保護具を着用する。換気が不十分な場合や、酸素不足、または暴露レベルが不明な場合は、認証を受けた呼吸用保護具を装着すること。

熱危険性の防護

データなし

その他の情報

本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。

セクション 9: 物理的および化学的特性

基本的な物理的・化学的特性に関する情報

物理状態	液体
外観	無色
色	無色
臭い	溶剤
臭いの閾値	データなし
pH	データなし
蒸発速度	データなし
融点	データなし
凝固点	データなし
沸点	140°C (284°F)
引火点	27°C (80.6°F)
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
燃焼性(固体、気体)	該当なし
蒸気圧	データなし
相対蒸気密度(20°C)	データなし
相対密度	1未満(水=1)
溶解度	データなし
分配係数:N-オクタノール／水	データなし
粘性	データなし
爆発限界	データなし

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

その他の情報

揮発性有機化合物含量 70～90%

セクション 10: 安定性および反応性

反応性

強酸化剤には、激しく反応する。火災または爆発の危険性が增大する恐れがある。

化学的安定性

引火性の液体および蒸気。可燃性または爆発性の蒸気・空気の混合物が発生する恐れがある。

有害反応の可能性

有害な重合は発生しない。

避けるべき条件

直射日光、極端な高温または低温、熱、熱い表面、火花、裸火、混触危険物質、およびその他の発火源となるもの。

混触危険物質

強酸、強塩基、強力な酸化剤。

危険有害な分解生成物

熱分解により、以下を生成する可能性がある：炭素酸化物（一酸化炭素、二酸化炭素）。ケイ素酸化物。炭化水素。

セクション 11: 有害性情報

毒性影響に関する情報

急性毒性（経口） 飲み込むと有害
急性毒性（経皮） 皮膚に接触すると有害
急性毒性（吸入） 吸入すると有害

MED-6640 Part A	
ATE JP(皮膚)	1375 mg/kg 体重
ATE JP(蒸気)	13.75 mg/l/4h
キシレン(o-, m-, p-異性体)(1330-20-7)	
LD50 経口 ラット	3523 mg/kg
LC50 吸入 ラット	6247 ppm/4 時間(種類: Sprague-Dawley 系)
ATE JP(皮膚)	1100 mg/kg 体重
ATE JP(蒸気)	11 mg/l/4 時間
ビニル基末端ジメチルシロキサンおよびジメチルシリコーン(68083-19-2)	
LD50 経口 ラット	5000 mg/kg 超
LD50 経皮 ウサギ	20000 mg/kg 超
LC50 吸入 ラット	600 mg/m ³ 超
皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激を引き起こす
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	強い眼刺激
呼吸器官系または皮膚感受性	未分類
生殖細胞変異原性	未分類
発癌性	未分類
キシレン(o-, m-, p-異性体)(1330-20-7)	
IARC グループ	3
生殖毒性	未分類

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

特定標的臓器毒性 (STOT) - 単回暴露	臓器 (中枢神経系、腎臓、肝臓、呼吸器系) に障害を引き起こす 眠気またはめまいのおそれがある
特定標的臓器毒性 (STOT) - 反復暴露	長期にわたる暴露または反復暴露により臓器 (中枢神経系、呼吸器系) に障害を引き起こす
吸引性呼吸器有害性	未分類

セクション 12: 環境影響情報

毒性

急性水生毒性	水生生物に毒性
慢性水生毒性	長期的影響により水生生物に毒性
生態系 - 一般	長期的影響により水生生物に毒性。
生態系 - 水	水生生物に毒性。長期的影響により水生生物に毒性。

キシレン (o-, m-, p-異性体) (1330-20-7)	
LC50 魚類 1	3.3 mg/l
EC50 ミジンコ 1	3.82 mg/l (暴露時間: 48 時間 - 種類: ミジンコ)
LC50 魚類 2	2.661 (2.661 - 4.093) mg/l (暴露時間: 96 時間 - 種類: ニジマス[静止])

残留性および分解性

MED-6640 Part A	
残留性および分解性	水域環境で長期的な悪影響を与えるおそれがある。

生物蓄積性の可能性

MED-6640 Part A	
生物蓄積性の可能性	立証されていない。

キシレン (o-, m-, p-異性体) (1330-20-7)	
BCF 魚類 1	0.6 (0.6 - 15)
分配係数 n-オクタノール/水 (Log Pow)	2.77 - 3.15

土壌中の移動性 データなし

その他の有害な影響

オゾン層に有害	未分類。
その他の情報	環境への放出を避けること。

セクション 13: 廃棄上の注意

廃棄物処理方法

廃棄物処理方法	廃棄物は、地域/地区/国内/国際規制に従って廃棄する。
その他の情報	空の容器は、可燃性の残留蒸気が内部に残っている恐れがあるので、取扱いは慎重にする。
生態系	環境への放出を避けること。

セクション 14: 輸送上の注意

この輸送上の説明は、SDS の起草時点で想定された内容に従って記述されており、基準となる変数が、SDS が発行された時点で既知であった、あるいは、未知であったため、変動することがある。

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

UNRTDG に準拠

国連正式輸送品名 キシレン溶液
梱包・包装等級 III
ID 番号 1307
危険等級 3
ラベルコード 3
海洋汚染物質 海洋汚染物質



IATA に準拠

国連正式輸送品名 キシレン溶液
梱包・包装等級 III
ID 番号 UN1307
危険等級 3
ラベルコード 3
ERG コード (IATA) 3L



IMDG/IMO に準拠

国連正式輸送品名 キシレン溶液
危険等級 3
ID 番号 UN1307
梱包・包装等級 III
ラベルコード 3
EmS-No. (火災) F-E
EmS-No. (漏出) S-D
MFAG 番号 130



その他の情報

船舶安全法 引火性液体
航空法 引火性液体

セクション 15: 適用法令

適用法令

この混合物中のすべての成分は、日本の ENCS (既存および新規化学物質) の目録に記載されており、ISHL (労働安全衛生法) は適用から除外されているか、関連規則による CBI 要件または開示規則に従い開示されていない。

キシレン (o-, m-, p-異性体) (1330-20-7)	
化学物質の審査および製造等の規制に関する法律	優先評価化学物質 (同法第 2 条第 5 項)
労働安全衛生法	第 2 類有機溶媒など (施行令、条、別表 6-2、有機溶剤中毒予防規則、A 第 1 条、第 1 項、項目 4) 作業環境評価基準、行政規制基準 (同法第 65 条第 2 項、第 1 項) 名称表示すべき有害物質 (同法 57 条、第 1 項、施行令第 18 条項目 1、項目 2、付表 No.9) 危険物質 - 引火性物質 (施行令付表 1 項目 4) 通知対象物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号、別表 No.9) キシレン (政令番号: 136) () 特殊診察対象物質、現行取扱労働者 (同法第 66 条第 2 項、施行令第 22 条第 1 項)

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

日本の毒物および劇物取締法	劇物(指定令第2条) キシレン()
水質汚濁防止法	指定化学物質(同法第2条、第4項、施行令第3条第3項)
消防法	第4類、引火性液体、第2石油類、水不溶性液体(同法第2条第7項、付表1、第4類)
悪臭防止法	規定された悪臭物質(同法第2条第1項、施行令第1条)
大気汚染防止法	有害大気汚染物質(中央環境審議会報告書 No. 9) 揮発性有機化合物(同法第2条第4項)(都道府県への環境省公式通知)
海洋汚染等および海上災害の防止に関する法律	引火性物質(同法第3条、第6項第2号、施行令第1条第7項、表第1の4) 有害液体物質 - 分類 Y(同法第3条第3項、施行令第1条第2項、添付表 No.1 項目 2) 有害液体物質 - 分類 X 相当(環境省告示)
外国為替および外国貿易法	第2号の承認(輸入貿易管理令、第4条第1項第2号) 輸出貿易管理令別表第1の16項 輸出承認(輸出貿易管理令、付表2)
道路法	自動車交通規制(施行令第19条第13項、日本道路公団出版)
特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律(バーゼル条約)	有害廃棄物(第2条第1項(l)(a)、関係政省令1993年2号)
環境汚染物質排出移動登録制度(PRTR制度)	等級1指定化学物質(同法第2条第2項、施行令第1条別表の1) キシレン(政令番号:80)(100%)
労働基準法	職業性疾病の原因となる化学物質(同法第75条、第2項、法令添付表1-2、項目4-1、厚生労働省告示1978年36号)
規制参考情報	オーストラリア化学物質インベントリー(AICS)に記載 カナダ国内物質リスト(DSL)に記載 中国で製造または輸入された現有化学物質名録(IECSC)に記載 EECの欧州既存商業化学物質リスト(EINECS)に記載 日本の化審法既存および新規化学物質(ENCS)一覧に記載 KECL/KECI(韓国の既存の化学物質インベントリー)に収載 ニュージーランド化学物質台帳(NZIoC)に記載 フィリピン化学品および化学物質インベントリー(PICCS)に記載 米国有害物質規制法(TSCA)に記載 日本の毒物および劇物取締法 環境汚染物質排出移動登録制度(PRTR制度) 米国SARAセクション313の報告義務対象 メキシコ国内化学物質(INSQ)リストに記載 トルコ化学物質インベントリーおよび制御(CICR)に記載 台湾化学物質インベントリー(TCSI)に記載

セクション 16: その他の情報

作成日または最新改訂日
参考文献

2021年1月6日
本書は日本の危険有害性情報の伝達方法の基準である安全データシート(SDS)の要件 JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準じて作成された。

MED-6640 Part A

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

日本 GHS SDS

本安全データシート(SDS)の情報は、本 SDS 記載の日付時点での正確なデータに基づいて作成されたものである。法の許容する最大限の範囲で、NUSIL TECHNOLOGY LLC およびその関連会社(“NUSIL”)は、本書記載の情報(正確さ、完全性、目的または使用の適宜性、商品性、不侵害、性能、安全性、適合性および安定性に関するものを含むがこれらに限定されない)に関するすべての表明および保証を明示的に排除する。本 SDS は、適切に訓練されたスタッフが製品を取扱う上での適切な使用方法、取扱い、保管および処分の方法に関するガイドとなることを目的としているが、すべてを網羅したものではない。NuSil 製品のユーザーは、その目的と使用内容に応じて、各製品および製品の組み合わせの安全性、適合性、適切な使用、取扱い、保管および処分を行うにあたり、ユーザー自身でそれらのテストおよび判断をされたい。法の許容する最大限の範囲で NUSIL は、いかなる種類の特殊、間接、偶発的、懲罰的または派生的損害賠償(利益喪失、風評被害、製品回収または営業中断を含むがこれらに限定されない)に対する責任を排除し、NUSIL 製品を購入したユーザーは、NUSIL 製品を使用することによって、いかなる状況下においても NUSIL がそれらの責任を負わないことに同意する。

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠
改訂日: 2021 年 1 月 6 日

発行日: 2021 年 1 月 6 日

バージョン: 1.0

セクション 1: 化学物質等および会社情報

製品特定名

製品形態 混合物
製品名 MED-6640 Part B
別名 シリコーン分散液

該当純物質または混合物の関連特定用途および使用禁止用途

物質／混合物の用途 業務用のみ。

安全データシートの作成者に関する詳細

会社名

NuSil Technology LLC
1050 Cindy Lane
Carpinteria, California 93013
USA
(805) 684-8780
ehs@nusil.com
www.nusil.com

緊急時の連絡先電話番号

緊急連絡先電話番号 800-424-9300 CHEMTREC (米国内)、+1 703-527-3887 CHEMTREC (国際および海上)
+(81)-345209637

セクション 2: 危険有害性情報

物質または混合物の分類

GHS-JP 分類

物理的危険性 引火性液体、区分 3
健康に対する危険有害性 急性毒性 (皮膚)、区分 4
急性毒性 (吸入: 蒸気)、区分 4
皮膚腐食性／刺激性、区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性、区分 2
特定標的臓器毒性 (単回暴露)、区分 1
特定標的臓器毒性 - 単回暴露、区分 3、昏睡
特定標的臓器毒性 (反復暴露) 区分 1
環境有害性 水生環境急性有害性 - 区分 2
水生環境有害性 - 慢性有害性 - 区分 2

ラベル要素

有害性に関する絵表示 (GHS-JP)



注意喚起語 (GHS-JP)
危険有害性情報 (GHS-JP)

危険
引火性液体および蒸気 (H226)。
皮膚への接触または吸引した場合は有害 (H312+H332)。
皮膚刺激 (H315)。
強い眼刺激 (H319)。
眠気またはめまいのおそれ (H336)。

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

注意書き[予防策]

臓器(中枢神経系、腎臓、肝臓、呼吸器系)に障害を引き起こす(H370)。

長期にわたる暴露または反復暴露により臓器(中枢神経系、呼吸器系)に障害を引き起こす(H372)。

長期的影響により水生生物に毒性(H411)。

熱、高温の表面、火花、火気、その他の発火源から遠ざける。禁煙。(P210)。

容器を密閉しておくこと。(P233)。

容器と受器を接地し、結合する。(P240)。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること(P241)。

火花を発生させない工具を使用すること。(P242)。

静電放電防止対策をとる。(P243)。

蒸気、ミスト、スプレーを吸入しないこと(P260)。

取扱い後は手、前腕部、顔をよく洗うこと。(P264)。

本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。(P270)。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)。

環境への放出を避けること。(P273)。

保護手袋、保護衣、眼球保護具を着用すること。(P280)。

皮膚に付着した場合:多量の水で洗うこと。(P302+P352)。

皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて取り去ること。水で皮膚を洗浄すること。(P303+P361+P353)。

吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること(P304+P340)。

眼に入った場合:水で数分間、注意深く洗浄すること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。(P305+P351+P338)。

暴露した場合や暴露が懸念される場合:毒物センターまたは医師に連絡すること。(P308+P311)。

気分が悪い時は、毒物センターまたは医師に連絡すること。(P312)。

特別な処置が必要(この SDS のセクション 4 を参照)(P321)。

皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。(P332+P313)。

眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。(P337+P313)。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)。

火災が発生した場合:適切な消火剤を使用すること(P370+P378)。

漏出物を回収すること。(P391)。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)。

施錠して保管すること。(P405)。

国際/国/都道府県/市町村の規則に従って、内容物/容器を廃棄すること。(P501)。

対応の注意書き

保管の注意書き

廃棄の注意書き

その他の危険有害性

分類に関係しない他の危険有害性

既存の眼疾患、皮膚疾患、または呼吸器系疾患がある場合は、暴露によりこれらの疾患が悪化するおそれがある。

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 3: 組成／成分情報

物質または混合物の識別 名称	濃度	混合物 化学式	公報リストの参照番号		CAS 番号
			CSCCL 番号	ISHL 番号	
キシレン(o-, m-, p-異性体)	60 - 80%	C8H10	(3)-3、(3)-60	4-(1)-39	1330-20-7
メチル水素ジメチルシロキサン およびジメチルシリコン	<5%	特記なし	(7)-477	(7)-477	68037-59-2

セクション 4: 応急措置

応急措置の説明

一般的な応急措置

意識のない場合は、口から何も与えてはならない。気分が悪い場合は、医師の診察を受ける（可能な場合はラベルを提示する）。

吸入した場合の応急措置

症状が発生した場合：屋外に退避し、暴露の疑いのある区域の換気を行う。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。医師の診断／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合の応急措置

直ちに汚染された衣類を脱ぐこと。汚染された領域を直ちに水で 15 分以上洗い流す。直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。

眼に入った場合の応急措置

直ちに水で 15 分以上洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。

飲み込んだ場合の応急措置

口をすすぐ。無理に吐かせない。医師による診察を受けること。

応急処置をする者の保護と対策

適切な個人用保護具 (PPE) を使用する。

急性と遅延型の両方を含む、最も重要な症状と影響

症状／影響

吸入すると有害。皮膚に接触すると有害。皮膚刺激。強い眼刺激。眠気およびめまいのおそれがある。長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。臓器の損傷を引き起こす。

吸入した場合の症状／影響

濃度が高い場合、めまい、嘔吐、無感覚、眠気、頭痛、麻酔に類似する症状などの中樞神経系の抑制を引き起こすおそれがある。吸入が、炎症、呼吸困難、意識喪失などの健康への悪影響を引き起こす可能性がある。

皮膚への接触後の症状／影響

赤み、痛み、はれ、かゆみ、炎症、乾燥、皮膚炎。この物質は、皮膚に接触すると有害であり、多大な健康への悪影響または死を引き起こす可能性がある。この物質は皮膚と眼から吸収されるおそれがある。

眼に入った後の症状／影響

接触により、結膜の赤み、膨張を伴う重度の炎症を引き起こすおそれがある。

飲み込んだ場合の症状／影響

飲み込むと有害な影響を及ぼすおそれがある。

慢性症状

長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。

即時の医療措置および特別な治療の対象となる症状

暴露した場合や暴露が懸念される場合には、医師の診断、手当てを受けること。医師の診察が必要な場合、製品の容器やラベルを持参すること。

セクション 5: 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

散水、水の噴霧、二酸化炭素 (CO₂)、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤。

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

不適切な消火剤

強力な放水を使用してはならない。強力な放水を使用すると、燃焼している液体が広範囲に飛散する可能性がある。

物質または混合物に由来する特別な危険有害性

火災危険性

引火性の液体および蒸気。蒸気は空気より重く、発火源までかなりの距離を移動し、蒸気源に逆引火するおそれがある。水面に浮いて再点火する可能性がある。

爆発危険性

可燃性または爆発性の蒸気・空気の混合物が発生する恐れがある。

反応性

強酸化剤には、激しく反応する。火災または爆発の危険性が增大する恐れがある。

消火時の注意事項

火災に関する予防措置

化学物質による火災の消火は慎重に行う。

消火時の指示

露出した容器の冷却には散水あるいは水の噴霧を使用する。大火災および大量の場合：退避する。爆発の危険があるので、十分に距離をとった位置から消火を行う。

消火時の防護

呼吸用保護具を含む適切な防護具を装着していない者は、火災発生エリアには立ち入ってはならない。

有害燃焼生成物

炭素酸化物（一酸化炭素、二酸化炭素）。ケイ素酸化物。有機化合物。ホルムアルデヒド。

その他の情報

消火活動の際の流出物が排水設備や水路に入らないようにすること。

セクション 6: 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具、および緊急措置

一般的な措置

蒸気、ミスト、スプレーを吸引しないこと。眼、皮膚、および衣服に接触しないようにすること。熱、高温の表面、火花、裸火、その他の発火源から遠ざかる。禁煙。静電荷の発生を避けるために特別な注意を払う。発火源を除去する。当該領域の換気を行う。

二次災害の防止策

緊急救援隊以外の人員

防護具

適切な個人用保護具(PPE)を使用する。

緊急措置

不必要な人員を退避させる。安全な場合は漏出を停止する。

緊急対応にあたる人員

防護具

浄化担当スタッフには適切な防護具を装着させる。

緊急措置

現場に到着したら、まず危険なものがないことを確認し、自分自身と周囲の人々を保護し、周辺を安全を確保し、状況が許し次第、訓練された人の支援を求める。最初に着火源を除去してから、汚染場所の換気を行う。

環境に関する注意事項

下水および公共用水への流入を防止する。

封じ込めおよび浄化の方法・機材

封じ込め

漏出した物質を防壁または吸収材で封じ込め、移動および下水や水路への流入を防止する。即時的な事前対策として、全方向の漏出あるいはリークエリアを隔離する。当該領域の換気を行う。

浄化方法

漏出した物質を迅速に除去し、回収した物質は安全に廃棄する。不活性物質を用いて漏出した物質の吸収や封じ込めを行う。可燃性の物質（おがくずまたはセルロース系の物質）で吸収してはならない。漏出した物質を廃棄に適した容器に移す。火花を発生させない工具を使用すること。漏出の発生後に、監督官庁に通報する。

他のセクションの参照事項

セクション 8「暴露防止および保護措置」およびセクション 13「廃棄上の注意」を参照のこと。

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 7: 取扱いおよび保管上の注意

安全な取扱いに関する注意事項

加工時の追加的有害危険性

空の容器は、可燃性の残留蒸気が内部に残っている恐れがあるので、取扱いは慎重にする。

安全な取扱いに関する注意事項

眼、皮膚、および衣服に接触しないようにすること。蒸気、ミスト、スプレーを吸引しないこと。屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。火花を発生させない工具を使用すること。空の容器は、まだ危険を引き起こす可能性があるため、慎重に取扱うこと。飲食や喫煙の前、および作業場を離れる際には、手やその他の露出した部位を刺激性の少ない石鹼と水で洗浄する。

衛生対策

労働安全衛生手順に従って取り扱うこと。

安全な保管の条件(混触危険性を含む)

技術的対策

適用される規則を遵守する。静電放電防止対策をとる。容器と受器を接地し、結合する。防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

保管条件

乾燥した涼しい場所に保管すること。直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質を避けて保管する。安全な場所に施錠して保管する。換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。耐火性の場所に保管する。

混触危険物質

強酸、強塩基、強力な酸化剤。

梱包/容器に使用されている材料

追加情報なし

特定の最終用途

業務用のみ。

セクション 8: 暴露防止および保護措置

管理基準

キシレン(o-, m-, p-異性体)(1330-20-7)		
日本	日本の行政基準	50 ppm
日本	暴露限界(JSOH)	50 ppm(217 mg/m ³)
USA ACGIH	ACGIH TWA(ppm)	100 ppm
USA ACGIH	ACGIH STEL(ppm)	150 ppm
USA ACGIH	ACGIH 化学物質カテゴリ	ヒト発がん性物質としては分類不能

生物学的限界

キシレン(o-, m-, p-異性体)(1330-20-7)		
日本	推奨暴露制限値 - 生物学的モニタリング	800 mg/l 媒体:尿 時間:週の終わりの勤務シフト終了時 パラメータ:合計(o-, m-, p-)メチル馬尿酸
ACGIH	生物学的暴露指数(BEI)	1.5 g/g クレアチニンパラメータ:メチル馬尿酸 - 媒体:尿 - 採取時期:交代勤務の終業時

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

暴露防止

適切な工学的管理

暴露の危険性のある区域のすぐ近くに、緊急用の洗眼器および安全シャワーを設置しなければならない。十分な換気が行われるようにすること（特に狭いエリアにおいて）。国／地方公共団体の規則を確実に遵守する。可燃性のガスまたは蒸気が放出される恐れがある場合には、ガス検出器を使用する。静電気の発生を防止するため、適切な手順で接地を行う。防爆型の機器を使用すること。有害ガスが放出される恐れがある場合には、ガス検出器を使用する。

個人用保護具

手袋。保護衣。防護ゴーグル。換気が不十分な場合：呼吸用保護具を着用。



保護衣の素材

耐化学物質性の素材および繊維。耐火／防炎／難燃性の衣服を着用すること。

手の保護

保護手袋を着用すること。

眼および顔面の保護

化学薬品対応の安全ゴーグル。

皮膚および身体の保護

適切な保護衣を着用する。

呼吸器系の保護

暴露限界値を超えるか、かゆみなどが感じられる場合は、認証済み呼吸保護具を着用する。換気が不十分な場合や、酸素不足、または暴露レベルが不明な場合は、認証を受けた呼吸用保護具を装着すること。

熱危険性の防護

データなし

その他の情報

本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。

セクション 9: 物理的および化学的特性

基本的な物理的・化学的特性に関する情報

物理状態	液体
外観	無色
色	無色
臭い	溶剤
臭いの閾値	データなし
pH	データなし
蒸発速度	データなし
融点	データなし
凝固点	データなし
沸点	140°C (284°F)
引火点	27°C (80.6°F)
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
燃焼性(固体、気体)	該当なし
蒸気圧	データなし
相対蒸気密度(20°C)	データなし
相対密度	1未満(水=1)
溶解度	データなし
分配係数:N-オクタノール／水	データなし
粘性	データなし
爆発限界	データなし

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

その他の情報

揮発性有機化合物含量 80～85%

セクション 10: 安定性および反応性

反応性

強酸化剤には、激しく反応する。火災または爆発の危険性が增大する恐れがある。

化学的安定性

引火性の液体および蒸気。可燃性または爆発性の蒸気・空気の混合物が発生する恐れがある。

有害反応の可能性

有害な重合は発生しない。

避けるべき条件

直射日光、極端な高温または低温、熱、熱い表面、火花、裸火、混触危険物質、およびその他の発火源となるもの。

混触危険物質

強酸、強塩基、強力な酸化剤。

危険有害な分解生成物

混触危険物質との接触または熱分解により、爆発性のある水素ガスを生成する可能性がある。温度が 150°C (300°F) を超えると分解し、ホルムアルデヒドの蒸気が発生する。ホルムアルデヒドは発がん性を持つ物質であり、皮膚および呼吸器系に対して感作物質として作用する可能性がある。ホルムアルデヒドはまた、呼吸器および眼への刺激を引き起こす可能性がある。熱分解により、以下を生成する可能性がある: 炭素酸化物 (一酸化炭素、二酸化炭素)。ケイ素酸化物。炭化水素。

セクション 11: 有害性情報

毒性影響に関する情報

急性毒性 (経口) 飲み込むと有害
急性毒性 (経皮) 皮膚に接触すると有害
急性毒性 (吸入) 吸入すると有害

MED-6640 Part B	
ATE JP (皮膚)	1375 mg/kg 体重
ATE JP (蒸気)	13.75 mg/l/4h
キシレン (o-, m-, p-異性体) (1330-20-7)	
LD50 経口 ラット	3523 mg/kg
LC50 吸入 ラット	6247 ppm/4 時間 (種類: Sprague-Dawley 系)
ATE JP (皮膚)	1100 mg/kg 体重
ATE JP (蒸気)	11 mg/l/4 時間
ビニル基末端ジメチルシロキサンおよびジメチルシリコン (68083-19-2)	
LD50 経口 ラット	5000 mg/kg 超
LD50 経皮 ウサギ	20000 mg/kg 超
LC50 吸入 ラット	600 mg/m ³ 超

皮膚腐食性/刺激性 皮膚刺激を引き起こす
眼に対する重篤な損傷性/刺激性 強い眼刺激
呼吸器系または皮膚感作性 未分類
生殖細胞変異原性 未分類

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

発癌性

未分類

キシレン(o-, m-, p-異性体)(1330-20-7)

IARC グループ

3

生殖毒性

未分類

特定標的臓器毒性(STOT) - 単回暴露

臓器(中枢神経系、腎臓、肝臓、呼吸器系)に障害を引き起こす
眠気またはめまいのおそれがある

特定標的臓器毒性(STOT) - 反復暴露

長期にわたる暴露または反復暴露により臓器(中枢神経系、呼吸器系)に障害を引き起こす

吸引性呼吸器有害性

未分類

セクション 12: 環境影響情報

毒性

急性水生毒性

水生生物に毒性

慢性水生毒性

長期的影響により水生生物に毒性

生態系 - 一般

長期的影響により水生生物に毒性。

生態系 - 水

水生生物に毒性。長期的影響により水生生物に毒性。

キシレン(o-, m-, p-異性体)(1330-20-7)

LC50 魚類 1

3.3 mg/l

EC50 ミジンコ 1

3.82 mg/l(暴露時間: 48 時間 - 種類: ミジンコ)

LC50 魚類 2

2.661 (2.661 - 4.093) mg/l(暴露時間: 96 時間 - 種類: ニジマス[静止])

残留性および分解性

MED-6640 Part B

残留性および分解性

立証されていない。

生物蓄積性の可能性

MED-6640 Part B

生物蓄積性の可能性

立証されていない。

キシレン(o-, m-, p-異性体)(1330-20-7)

BCF 魚類 1

0.6(0.6 - 15)

分配係数 n-オクタノール/水(Log Pow)

2.77 - 3.15

土壤中の移動性 データなし

その他の有害な影響

オゾン層に有害

未分類。

その他の情報

環境への放出を避けること。

セクション 13: 廃棄上の注意

廃棄物処理方法

廃棄物処理方法

廃棄物は、地域/地区/国内/国際規制に従って廃棄する。

その他の情報

空の容器は、可燃性の残留蒸気が内部に残っている恐れがあるので、取扱いは慎重にする。

生態系

環境への放出を避けること。

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 14: 輸送上の注意

この輸送上の説明は、SDS の起草時点で想定された内容に従って記述されており、基準となる変数が、SDS が発行された時点で既知であった、あるいは、未知であったため、変動することがある。

UNRTDG に準拠

国連正式輸送品名	キシレン溶液
梱包・包装等級	III
ID 番号	1307
危険等級	3
ラベルコード	3
海洋汚染物質	海洋汚染物質



IATA に準拠

国連正式輸送品名	キシレン溶液
梱包・包装等級	III
ID 番号	UN1307
危険等級	3
ラベルコード	3
ERG コード (IATA)	3L



IMDG/IMO に準拠

国連正式輸送品名	キシレン溶液
危険等級	3
ID 番号	UN1307
梱包・包装等級	III
ラベルコード	3
EmS-No. (火災)	F-E
EmS-No. (漏出)	S-D
MFAG 番号	130



その他の情報

船舶安全法	引火性液体
航空法	引火性液体

セクション 15: 適用法令

適用法令

この混合物中のすべての成分は、日本の ENCS (既存および新規化学物質) の目録に記載されており、ISHL (労働安全衛生法) は適用から除外されているか、関連規則による CBI 要件または開示規則に従い開示されていない。

キシレン (o-, m-, p-異性体) (1330-20-7)	
化学物質の審査および製造等の規制に関する法律	優先評価化学物質 (同法第 2 条第 5 項)
労働安全衛生法	第 2 類有機溶媒など (施行令、条、別表 6-2、有機溶剤中毒予防規則、A 第 1 条、第 1 項、項目 4) 作業環境評価基準、行政規制基準 (同法第 65 条第 2 項、第 1 項) 名称表示すべき有害物質 (同法 57 条、第 1 項、施行令第 18 条 項目 1、項目 2、付表 No.9) 危険物質 - 引火性物質 (施行令付表 1 項目 4)

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

	通知対象物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号、別表 No.9) キシレン(政令番号:136)() 特殊診察対象物質、現行取扱労働者(同法第 66 条第 2 項、施行令第 22 条第 1 項)
日本の毒物および劇物取締法	劇物(指定令第 2 条) キシレン()
水質汚濁防止法	指定化学物質(同法第 2 条、第 4 項、施行令第 3 条第 3 項)
消防法	第 4 類、引火性液体、第 2 石油類、水不溶性液体(同法第 2 条第 7 項、付表 1、第 4 類)
悪臭防止法	規定された悪臭物質(同法第 2 条第 1 項、施行令第 1 条)
大気汚染防止法	有害大気汚染物質(中央環境審議会報告書 No. 9) 揮発性有機化合物(同法第 2 条第 4 項)(都道府県への環境省公式通知)
海洋汚染等および海上災害の防止に関する法律	引火性物質(同法第 3 条、第 6 項第 2 号、施行令第 1 条第 7 項、表第 1 の 4) 有害液体物質 - 分類 Y(同法第 3 条第 3 項、施行令第 1 条第 2 項、添付表 No.1 項目 2) 有害液体物質 - 分類 X 相当(環境省告示)
外国為替および外国貿易法	第 2 号の承認(輸入貿易管理令、第 4 条第 1 項第 2 号) 輸出貿易管理令別表第 1 の 16 項 輸出承認(輸出貿易管理令、付表 2)
道路法	自動車交通規制(施行令第 19 条第 13 項、日本道路公団出版)
特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律(バーゼル条約)	有害廃棄物(第 2 条第 1 項 (I) (a)、関係政省令 1993 年 2 号)
環境汚染物質排出移動登録制度(PRTR 制度)	等級 1 指定化学物質(同法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表の 1) キシレン(政令番号:80)(100%)
労働基準法	職業性疾病の原因となる化学物質(同法第 75 条、第 2 項、法令添付表 1-2、項目 4-1、厚生労働省告示 1978 年 36 号)
規制参考情報	オーストラリア化学物質インベントリー(AICS)に記載 カナダ国内物質リスト(DSL)に記載 中国で製造または輸入された現有化学物質名録(IECSC)に記載 EEC の欧州既存商業化学物質リスト(EINECS)に記載 日本の化審法既存および新規化学物質(ENCS)一覧に記載 KECL/KECI(韓国の既存の化学物質インベントリー)に記載 ニュージーランド化学物質台帳(NZIoC)に記載 フィリピン化学品および化学物質インベントリー(PICCS)に記載 米国有害物質規制法(TSCA)に記載 日本の毒物および劇物取締法 環境汚染物質排出移動登録制度(PRTR 制度) 米国 SARA セクション 313 の報告義務対象 メキシコ国内化学物質(INSQ)リストに記載 トルコ化学物質インベントリーおよび制御(CICR)に記載 台湾化学物質インベントリー(TCSI)に記載
	メチル水素ジメチルシロキサンおよびジメチルシリコン(68037-59-2)
規制参考情報	

MED-6640 Part B

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

米国有害物質規制法(TSCA)に記載
カナダ国内物質リスト(DSL)に記載
オーストラリア化学物質インベントリー(AICS)に記載
フィリピン化学品および化学物質インベントリー(PICCS)に記載
日本の化審法既存および新規化学物質(ENCS)一覧に記載
KECL/KECI(韓国の既存の化学物質インベントリー)に記載
中国で製造または輸入された現有化学物質名録(IECSC)に記載
ニュージーランド化学物質台帳(NZIoC)に記載
日本の ISHL(労働安全衛生法)に記載
メキシコ国内化学物質(INSQ)リストに記載
台湾化学物質インベントリー(TCSI)に記載

セクション 16: その他の情報

作成日または最新改訂日
参考文献

2021 年 1 月 6 日

本書は日本の危険有害性情報の伝達方法の基準である安全データシート(SDS)の要件 JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準じて作成された。

日本 GHS SDS

本安全データシート(SDS)の情報は、本 SDS 記載の日付時点での正確なデータに基づいて作成されたものである。法の許容する最大限の範囲で、NUSIL TECHNOLOGY LLC およびその関連会社(“NUSIL”)は、本書記載の情報(正確さ、完全性、目的または使用の適宜性、商品性、不侵害、性能、安全性、適合性および安定性に関するものを含むがこれらに限定されない)に関するすべての表明および保証を明示的に排除する。本 SDS は、適切に訓練されたスタッフが製品を取扱う上での適切な使用方法、取扱い、保管および処分の方法に関するガイドとなることを目的としているが、すべてを網羅したものではない。NuSil 製品のユーザーは、その目的と使用内容に応じて、各製品および製品の組み合わせの安全性、適合性、適切な使用、取扱い、保管および処分を行うにあたり、ユーザー自身でそれらのテストおよび判断をされたい。法の許容する最大限の範囲で NUSIL は、いかなる種類の特殊、間接、偶発的、懲罰的または派生的損害賠償(利益喪失、風評被害、製品回収または営業中断を含むがこれらに限定されない)に対する責任を排除し、NUSIL 製品を購入したユーザーは、NUSIL 製品を使用することによって、いかなる状況下においても NUSIL がそれらの責任を負わないことに同意する。